

リオデジャネイロオリンピック視察

報 告 書

品 川 区 視 察 団

平成28年10月

目 次

1	視察概要	1
2	2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの概要	4
3	視察内容	6
4	視察を終えて（調査結果と具体的方向性提案）	
	（1）ボランティア	24
	（2）文化プログラム	32
	（3）まちづくり	38
	（4）ホスピタリティハウス	64
5	区議会議員の視点から	70

〔資料編〕

- 1 調査・活動レポート
- 2 品川区議会オリンピック・パラリンピック推進特別委員会の要望に対する調査結果

1 視察概要

(1) 目的

品川区では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に持続的発展を目指し、これまでも招致決定後より様々な機運醸成事業等を実施してきた。また、品川区内の競技会場において競技が実施される。そこで、直前の最後の夏季大会であるリオデジャネイロオリンピックの実施状況を視察し、区の施策に活かしていく。

(2) 主な調査・活動内容

- ① 区内開催競技関係
- ② ボランティア・地元の子どもたちの協力・関わり方
- ③ 文化プログラム・イベント内容
- ④ 多言語対応（案内サイン、デジタルサイネージ、ピクトグラム等）
- ⑤ バリアフリー等まちづくりの状況
- ⑥ 事前キャンプ誘致活動

(3) 視察期間

平成28年8月5日（金）～11日（木） 3泊7日

(4) 視察団員

団長：文化スポーツ振興部長
オリンピック・パラリンピック準備課長
スポーツ推進課長
都市開発課長
オリンピック・パラリンピック担当主査
渡辺裕一（品川区議会自民党・子ども未来）
いながわ貴之（民進党・無所属クラブ）

総数7名（職員5名、区議会議員2名）

(5) 視察行程

月日	渡航先 (都市名)	現地 時間	訪問先・調査内容
8/5 (金)	日本(東京) ドイツ ドイツ	14:05 18:50 22:15	羽田空港発 フランクフルト空港着 フランクフルト空港発
8/6 (土)	ブラジル (リオ市)	5:00 9:30 13:30 16:30 17:30 20:20 24:00	アントニオ・カルロス・ジョビン国際空港着 ●オリンピックブルバード界隈のオリンピック関連催事、 Brazil House 調査 (Centro 地区) ●オリンピックミュージアム及び周辺調査 (Engenho Novo 地区) ●Japan House 調査 (Barra 地区) ●Facebook オリンピック責任者ヒアリング (NOVOTEL Parque Olimpico にて) ●大会ボランティアとのヒアリング ～ 懇親会 (Barra 地区) → 大会ボランティア宿泊施設確認 ホテル着～解散
8/7 (日)	(リオ市)	8:00 9:00 10:00 13:00 ～ 14:30 13:45 ～ 15:45 18:00 20:15	ミーティング ●ビーチバレーボール会場内の標識・施設等調査、 大会ボランティアインタビュー (Copacabana 地区) ●ビーチバレーボール競技会場、観客導線等調査 (Copacabana 地区) <分担行動> ●コパカバーナ地区でのサイン、バリアフリー、 Wi-Fi 対応等調査、都市ボランティアインタビュー (Copacabana 地区) ※職員 3 名 ●Japan House レセプション参加 ●ニッケイ新聞社取材対応 (Barra 地区) ※職員 2 名、議員 2 名 <合流> ●British House (ロンドン市関係者ヒアリング・ 調査) (Parque Lage にて) ホテル着～解散

8/8 (月)	(リオ市)	7:30 8:50 10:00 11:00 12:30 16:00 18:00 19:30	ミーティング ●ターミナル駅調査 (Centrall 駅及び周辺) ●ホッケー会場内の標識・施設等調査、 大会ボランティアインタビュー (Deodro 地区) ●ホッケー競技会場、観客導線等調査 ※日本ホッケー協会と意見交換 (Deodro 地区) ●デオドロ地区でのサイン、バリアフリー、Wi-Fi 対応等調査、都市ボランティアインタビュー (Deodro 地区) ●リオ市文化プログラム担当者ヒアリング、 リオ大会組織委員会教育チームヒアリング (Centro 地区) ●Pacific House (NOC への事前キャンプ誘致プロ モーション実施) (Copacabana 地区) ホテル着～解散
8/9 (火)	(リオ市)	8:00 10:00 12:00 15:00 15:30 19:00 22:10	ミーティング ●ブラジル視覚障害者スポーツ連盟ヒアリング (Centro 地区) ●文化施設調査「セラロンの階段」 "Escadaria do Selarón" (Centro 地区) ●セーリング会場周辺公園調査、ボランティア インタビュー (Praia do Flamengo にて) ●観客視点での導線調査 セーリング会場 → 地下鉄利用 (Catete 駅 ~ Cardeal Arcoverde 駅) → (徒歩) → ビーチバレー ボール会場 19:00 空港にて総括ミーティング 22:10 アントニオ・カルロス・ジョビン国際空港発
8/10 (水)	ドイツ ドイツ	14:35 18:05	フランクフルト空港着 フランクフルト空港発
8/11 (木)	日本(東京)	12:15	羽田空港着

2 2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの概要

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の概要は、以下のとおりです。

オリンピック競技大会開催概要

正式名称

Games of the XXXI Olympiad

第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）

開催期間

2016年8月5日～21日

競技数

28競技（新規採用：7人制ラグビー、ゴルフ）

パラリンピック競技大会開催概要

正式名称

Rio 2016 Paralympic Games

リオ2016パラリンピック競技大会

開催期間

2016年9月7日～18日

競技数

22競技（新規採用：カヌー、トライアスロン）

大会エンブレム



画像出典：リオ大会組織委員会HPより

大会マスコット



画像出典：リオ大会組織委員会HPより

オリンピック・マスコット「ビニシウス」

パラリンピック・マスコット「トム」

※ボサノバの名曲「イパネマの娘」を作詞したブラジル出身の音楽家ビニシウス・モラエス氏、作曲したアントニオ・カルロス・ジョビン氏（愛称トム）に由来

競技会場



画像出典：リオ大会組織委員会HPより

(1) デオドロ (DEODORO) 地区

(主な開催競技)

ホッケー／バスケットボール (女子予選)／近代五種／7人制ラグビー／
馬術／射撃／カヌー (スラローム)／自転車 (BMX、マウンテンバイク)

(2) バッハ (BARRA) 地区

(主な開催競技)

ゴルフ／自転車 (トラック)／体操／水泳／バスケットボール／柔道／
レスリング／テコンドー／フェンシング／重量挙げ／ハンドボール／
卓球／バドミントン／ボクシング／テニス

(3) マラカナン (MARACANA) 地区

(主な開催競技)

開会式・閉会式／陸上競技／サッカー／バレーボール／アーチェリー／
マラソン (スタート・ゴール地点)

(4) コパカバーナ (COPACABANA) 地区

(主な開催競技)

ビーチバレー／自転車(ロードレース)／トライアスロン／セーリング／
カヌー／ボート／水泳 (オープンウォーター)

3 視察内容

(1) 8月6日(土)

①オリンピックブルバード界隈のオリンピック関連催事、Brazil House 調査
<9時30分～13時 Centro 地区>

リオ大会に合わせて、軍の施設等の再開発が進んだ港湾エリアである、「オリンピックブルバード」と呼ばれている場所を実際に徒歩で調査しました。以前は治安が悪く人が近寄らない地域であったとのことですが、その面影を少しも感じさせることなく、スポンサーブースが立ち並び、多くの家族連れや観光客で賑わっていて、再開発の成果が見られました。

具体的には、日産、Nike、Skol(ビール)など、大会協賛企業によるアトラクション(気球の乗船・バンジージャンプ等)が実施されていました。また、大きなステージが点在し、演奏等文化プログラムと思われるイベントも行われていました。

また、このエリアに、「ポルトガルハウス」(船上ハウス)・オリンピックに合わせて建設された「明日の博物館」、「ブラジルハウス」等が、特に行列をつくる賑わいでした。



オリンピックブルバードのゲート



オリンピックブルバードの聖火台



顔出しパネル



オリンピックブルバードの気球

その他、「オリンピカ」の文字のモニュメント、聖火台の設置、大道芸人、アイス売り、トランペット演奏、似顔絵 T シャツ、サンバの顔出しパネルなどが特徴的でありました。顔出しパネルは、区内の旧東海道に、例えば花魁をモチーフにしたものなどがあっても良いのではないかと感じました。

このエリアの従事者(大会関係者)の移動は、カートで行われていました。また、約10メートルに1個の間隔でゴミ箱が設置され、市の清掃職員により、きめ細かく清掃が行われていました。

季節は冬とは言え、日差しは強く暑く感じたせいか、コーラの販売が多く出ていました。店員は、英語は全くわからずポルトガル語のみで販売しているという状況でした。

また、郡警察と軍隊が機関銃を片手に要所要所に立っていた様子は物々しく、印象的でした。

②オリンピックミュージアム及び周辺調査

<13時30分～14時 Engenhao Novo 地区>

リオ大会をきっかけとして、オープンしたばかりという「オリンピックミュージアム」を視察する予定でしたが、セキュリティ上の理由により閉館であり入館できませんでした。このようなことは、ブラジルではよくあることのようにです。

このエリアには、陸上競技場(オリンピックスタジアム)もあり、駅からバリアフリー対応のある陸橋が確認できました。この陸橋ができたことにより、これまで、大回りをしなければならなかった車椅子の利用者が、とても便利になったという声を、実際に耳にすることができました。



オリンピックミュージアム



オリンピックスタジアム

③Japan House 調査

<16時30分～17時 Barra 地区>

Japan House とは、東京2020組織委員会、東京都、JOC、JPC 主催のホスピ

タリティハウスです。一般向け公開時間帯に訪問したところ、外国人向けに様々なワークショップが行われ、都道府県の紹介コーナーに、PRパンフレット等が置かれていました。京都が一番人気のようで、京都のパンフレットがなくなっていました。補充されていませんでした。地の利の悪い場所ですが、多くのブラジル人が訪れていました。(大会期間中、8.2万人が訪れたとのこと)

こちらに、23区の観光紹介コーナーや、事前キャンプ誘致コーナー等設置されていれば効果的なPRができたと感じました。



ジャパンハウス

④Facebook オリンピック責任者ヒアリング

<17時30分～18時30分 NOVOTEL Paraque Olimpico にて>

フェイスブックのコンテンツを作成しているメンバー4人と、ヒアリングを実施し、以下の情報を得ました。

- ・今回のリオ大会における関り方を確認したところ、インスタグラムで、ハイライトシーンを流しているとのこと。6億5千万人のユーザーがおり、そのうち2億人は、スポーツファンであるとのこと。
- ・フェイスブックとしては、多くの人々がオリンピックについて書き込みをすることが目標である。ワールドカップでは、2億5千万人が投稿し、30億の書き込みがあった。8月5日のリオ大会開会式では、4時間で、全世界で5千200万人の投稿に対し、1億900万の書き込みがあった。
- ・リオ大会組織委員会とコンテンツを作成し、チケット販売にもつなげた。東京大会でもニーズがあれば行いたい。オリンピックでの取組は、ロンドン大会から始めており、その後ワールドカップも手がけた。各大会により、戦略を変えている。2020年にはさらに環境が変化しているため、何ができるかとても楽しみである。
- ・フェイスブックを使い、聖火ランナー等についての記事も出し、PRした。インフラとしては、リオ市内に、5ヶ所フェイスブック用に通信の確保ができる場所を設置した。

リオ大会組織委員会が、機運醸成のために、SNS を多用したということがよくわかりました。



Facebook オリンピック責任者とヒアリング

⑤大会ボランティアとのヒアリング～懇親会

<20時20分～22時 Barra 地区> → 大会ボランティア宿泊施設確認

大会ボランティア4人(日本人3人、タイ人1人)に対し、ヒアリングを実施し、以下の情報を得るとともに、皆さんの思いを感じとることができました。

- ・大会ボランティアは5万人採用した。(目標は、7万人であったが、予算削減により減をした)24万人が応募をして、4割がリオ在住、イギリス・ロシア・アメリカほかの国が1万人以上、採用の2割が外国人である。
- ・ヒアリングメンバーの職種は通訳であり、案内ではなく、対ジャーナリストである。
- ・事前トレーニングは、オンラインを活用し、3日間であった。(オリンピック全体のこと、職務について、担当する会場について)
- ・ダイバーシティが課題となり、性別と生年月日は出していない。
- ・ブラジルに関することと、ポルトガル語の勉強が、リオ大会組織委員会の定型オンラインプログラムに組み込まれている。
- ・ブラジル人は大変フレンドリーであるが、準備の方法が突貫工事のようで、文句を言われてから始め、うまく終わればよいという考えである。全てが遅れ遅れで、一夜漬けであるが、成功させたいという意識は強い。
- ・ボランティア自体の意識・士気は高い。
- ・2020年の日本に対する期待は大きい。
- ・若者にとっては、ボランティアは視野が広がる。人と会う大切さを下の世代に伝えたい。
- ・シフトの時間帯は、午前8時半から、午後4時か5時と、午前5時から午前10

時か11時という2パターンがある。

- ・市内の交通手段としては、リオカード（オリパラ期間中に公共交通機関が乗り降り自由となるカード）が1日4回まで使用可能。

- ・休日は、1週間に1日のみ。

- ・4人のうち、2人が社会人で、2人が学生であった、ひとりの日本人の女子大生は、23日間滞在予定で、8人と、民泊を活用しルームシェアをしているとのことであった。（7人の国籍は、ドイツ3、アメリカ1、イギリス1、ポーランド1、チリ1）（親を説得しての今回の参加とのことだが、日本の若者の行動力と勇気に感動した。）

- ・日本人の応募がはじめは少なく、東京外国語大学で募り、50人増えた。大学が、宿泊施設を借り切り、そこで宿泊している日本人もいる。（夜、かなり遅くなったため、中に入ることはできなかったが、外見は、新しいマンションのようであった。リオ大会をきっかけとして、建設されたとのことである。）



大会ボランティアとの意見交換



大会ボランティアへのインタビュー

(2) 8月7日(日)

⑥ビーチバレーボール会場内の標識・施設等調査、大会ボランティアインタビュー <9時～10時 Copacabana 地区>

ビーチバレーボール競技会場に向かうまで、会場内外の各種サイネージ、施設等を観察し、多くのボランティアにもインタビューを実施しました。インタビュー後は、必ず、ピンバッジやうちわを進呈し、品川区のPRも行いました。

オリンピックに係るサインは、統一的に、適所に配置されていましたが、言語は、ポルトガル語と英語の2ヶ国語のみでした。

ボランティアについては、ビーチバレーボール競技会場全体のボランティアの数は約200人、コパカバーナ海岸全体では、約1,000人、会場の受付まわりで約50人、会場メインコート周辺関係で約50人以上が配置されていることを確認しました。



ビーチバレーボール競技会場

⑦ビーチバレーボール競技会場、観客導線等調査

<10時～13時 Copacabana 地区>

会場に入場してから、競技会場の観客席に着くまでは、観客がストレスなく移動できていました。

障害者用観覧席、案内サイン等バリアフリー対策がされていましたが、点字ブロックはなく、大会ボランティアの介助によりフォローされていました。

会場内にも、機関銃を手にした軍隊が、多く配置されていました。

試合は、ブラジル対ロシアと、ポーランド対アメリカという2試合が行われていました。地元のブラジルが出ていることと、オリンピック競技のなかでもビーチバレーボールは大変人気のある競技であることから、会場はほぼ満席でした。

2020東京大会で、区内の潮風公園においても、これだけ多くの観戦客が見込

まれます。このため会場を一步出た観戦客を、いかに区内に誘導するかということが重要であるということを実感しました。



ビーチバレーボール競技会場



ビーチバレーボール競技会場の障害者用観覧席



ビーチバレーボールチケット

⑧コパカバーナ地区でのサイン、バリアフリー、Wi-Fi 対応等調査、都市ボランティアインタビュー

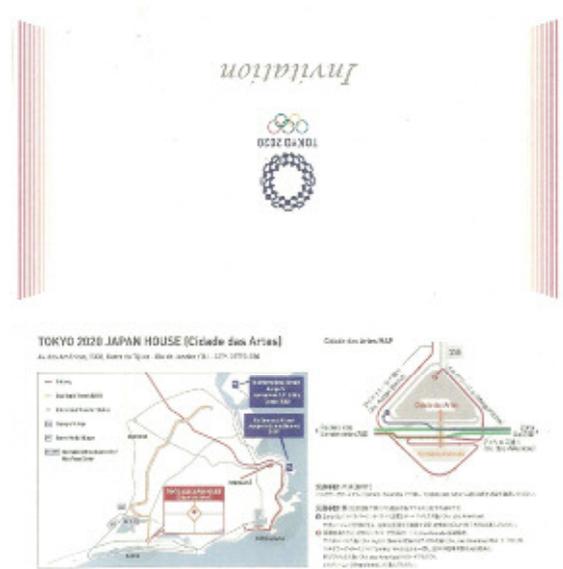
<13 時～14 時 30 分 Copacabana 地区> *職員 3 名

ここから分担行動をとり、職員 3 名により行動をしました。ビーチバレーボール競技会場内において、Wi-Fi 対応はされていませんでした。

また、ボランティアのまとめ役となる方から、各人の適性に合わせてどこに配置するかがとても大変であるというお話を伺うことができました。コパカバーナ海岸では、純粋なボランティアと、有給スタッフもいることがわかりました。



コパカバーナビーチのサイン



ジャパンハウス招待状

⑨Japan House レセプション参加

⑩ニッケイ新聞社取材対応

<13時45分～15時45分 Barra 地区> *職員2名、議員2名

職員2名と、議員2名は、Japan House レセプションに参加しました。これは、森大会組織委員会会長・山本東京都副知事・竹田日本オリンピック委員会会長の3人の連名により関係者を招待し、Japan House を内外にアピールするためのレセプションです。そこで、列席するオリンピック・パラリンピック担当大臣、スポーツ庁長官、大会組織委員会幹部などキーパーソンに対し、品川区のこれまでの取り組みや今後の展望を説明し、協力をとりつけました。

同時に、ニッケイ新聞社の取材に対応し、日系ブラジル人コミュニティ者に対し、品川区の取り組みを情報発信しました。



ニッケイ新聞社からの取材対応

⑪British House (ロンドン市関係者ヒアリング・調査)

<18時～19時40分 Parque Lageにて>

ここから、視察団全員が合流しての行動となります。

英国オリンピック委員会、ロンドン市が運営している British House (IOC、NOC 幹部などスポーツ関係の招待客限定施設) を訪問しました。事前に大変厳しいセキュリティチェックを受けました。

集まっている各国 NOC 関係者に対し、品川区のプロモーションや、事前キャンプ誘致を実施し、また、ロンドン大会を担当していた、ロンドン市関係者と話しをしました。2020東京大会に向けてのアドバイスとしては、ひとつのプランを個々に実施するのではなく皆が共有することが大切であること、ボランティアは鍵となること、さらに、シティドレッシング、フラッグ、オブジェ等はあまり早くから始めないほうが良いとの、話を伺いました。ロンドン市のほうが、リオ市よりもずっと盛り上がっていた、ロンドン市民は成功を誇りに思っているとのこと。今後もメール等でアドバイスをいただけるという約束をとりつけました。



ブリティッシュハウス

(3) 8月8日(月)

⑫ターミナル駅調査

<8時50分～9時20分 Centrall 駅及び周辺>

郊外に住む住人が通勤・通学に利用するセントラル駅と駅前のバスターミナルにおける、オリンピック関連のサイネージ、都市ボランティアの配置状況等を調査しました。



駅前の様子

⑬ホッケー会場内の標識・施設等調査、大会ボランティアインタビュー
＜10時～11時 Deodoro 地区＞

ホッケー会場にいたる道は1本道であり、軍の施設が周辺にあるため、治安も良いところでした。軍の担当と、ボランティアによる2回のセキュリティチェックを受けました。

ボランティアは、市の臨時職員・市のOB・大会組織委員会採用等、様々いることがわかりました。純粋なボランティアは、50人程度毎日来ているとのことでした。

競技会場に入るまでの会場内（パーク内）には、大きなモニターがあり、パブリックビューイングや、企業によるスナッグゴルフ、タグラグビー等の体験コーナーがありました。さらに楽器演奏ができそうな舞台もありました。

多くの仮設トイレが、きれいに配備されていました。

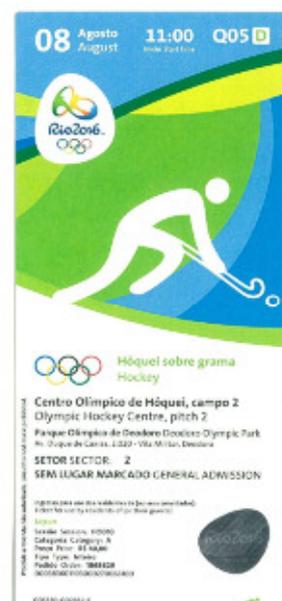
飲食設備は、整っていませんでした。（スポンサーの関係とのこと）



ホッケー会場周辺のサイン



セキュリティチェック



ホッケー競技チケット

⑭ホッケー競技会場、観客導線等調査

<11時～12時30分 Deodoro 地区>

ホッケー会場においても、ビーチバレーボール会場と同様に、入場してから、競技会場の観客席に着くまでは、観客がストレスなく移動できていました。ただ、構造上必要と思われる仮設の階段が途中にあり、あまりに簡易な設置状況のため、安全上問題がないのか等疑問を感じました。

ここで、日本ホッケー協会の山口強化本部長、中野国際委員会委員、西村広報・マーケティング委員の3人と合流し、2020東京大会に向けた意見交換を交わしながら、競技会場を確認しました。

入場できた会場はサブピッチで、試合は、ドイツ対インドが行われていましたが、かなりの空席が目立っていました。改めて、ホッケーがオリンピック競技であっても、いかにマイナー競技であるかということを確認しました。



会場内(パーク内)の様子



仮設階段

⑮デオドロ地区でのサイン、バリアフリー、Wi-Fi 対応等調査、都市ボランティアインタビュー

<12時30分～13時30分 Deodoro 地区>

ホッケー競技会場内において、Wi-Fi 対応はされていませんでした。

観戦を終えた観客に、このあとの行動について聞いたところ、「応援して疲れたので、レストランに行く」と言っていました。観戦客は、あらかじめ SNS 等により自分たちの行動について調べている様子でした。地図を手にしていない観戦客は見当たりませんでした。SNS による発信がいかに大切かということがわかりました。

会場を出たあとは、都市ボランティアは見当たらず、代わりに軍関係者が多く見られました。

最寄駅と思われるデオドロ駅は、新しくできたものですが、会場まではかなりの距離があり、駅からは、徒歩かタクシーしか手段がなく不便を感じました。



軍関係者の警備



ホッケー競技会場

⑩リオ市文化プログラム担当者ヒアリング、大会組織委員会教育チームヒアリング
<16時～17時15分 Centro 地区>

リオ大会組織委員会内において、リオ市文化プログラム担当者および、リオ組織委員会教育チームと、ヒアリングを実施し、以下の情報を得ました。

文化プログラムについて

- ・リオ市の文化プログラムのコンセプトは住民の主体性尊重で、昨年8月22日から、イベントを公募し、約400のプロジェクトを認定した。リオ市はしくみを作ったのみで、イベント等は実施していない。リオ市が行ったのは、機材の貸出しやインフラ整備。
- ・テレビは使わずにSNSで情報を拡散した。3ヶ国語対応（英語、スペイン語、ポルトガル語）
- ・リオ大会組織委員会のプログラム（Celebra）は、財政的に安定せずに、実施ができなかった。各会場内におけるスポーツ体験と、フードショーによるブラジル食の紹介程度。
- ・リオ大会組織委員会と、リオ市が唯一共同で実施できたのは、聖火台の設置のみである。

教育プログラムについて

- ・教育プログラム（Transforma）は、2013年から開始、主な対象年齢は7歳から19歳。そもそも、ブラジルにおけるスポーツ教育の現状が未成熟であるため、教師に対するネットによる啓発が主目的であった。
- ・オリパラ教育推進校は、2013年は15校であったが、2016年には、1万5,721校まで増加させた。ちなみに、都内では2016年すでに2300校が推進校となっている。



リオ市文化プログラム担当者と



リオ組織委員会教育チームと

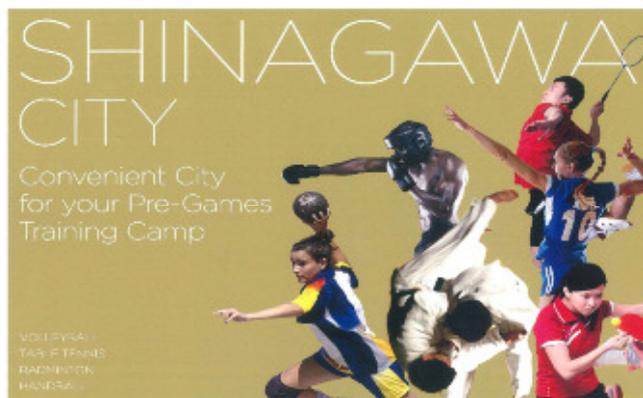
⑰Pacific House (NOC への事前キャンプ誘致プロモーション実施)

<18時～18時40分 Copacabana 地区>

オセアニア諸国の各国オリンピック委員会が共同で運営している Pacific House (IOC、NOC 幹部等スポーツ関係の招待客限定施設) に訪問しました。こちらには、各国の NOC 関係者が多く来館するために、品川区の事前キャンプ誘致プロモーションを実施するとともに、PR 用冊子を来館者が手に取れる場所に置かせていただきました。



パシフィックハウスにて事前キャンプ誘致



品川区「事前キャンプ誘致PR用冊子」

(4) 8月9日(火)

⑱ ブラジル視覚障害者スポーツ連盟ヒアリング

<10時～11時30分 Centro 地区>

ブラジル視覚障害者スポーツ連盟の会長に面会し、以下の情報を得ました。

・ブラジルではサッカーが一番の人気スポーツであるが、ブラインドサッカーも国全体でポピュラーとなるようイベント等を実施し、パラスポーツの中では一番の人気である。

・政府からの補助は選手を盛り上げるのみで、当連盟の財政は苦しい。

・国際大会において、会場の近隣にある学校と連携する程度で、リオ市との連携はない。

(品川区の取組みは先進的であると再認識した。)

・今回の会場は、オリンピックでテニス競技を開催した会場であるが、事前に練習ができず、芝の状態もわからないため、不便である。車椅子テニスの観戦客の声心配である。

・リオ市におけるネックは移動である。道・サイン・バス乗り場全てにおいて改善をしてほしい。バスはいつ来たかもわからない。2年前から車いす対応のバスができたが、故障していたり、運転手が使えず、ほとんど使用できていない。高齢者などに配慮が全くない。

・オリンピック競技会場は、規則にのっとって、バリアフリーは最高なものとしているが、一歩出ると、障害者に対し配慮がない。点字ブロックもなっていない。

・2020東京大会では、世界中が家で、テレビやインターネットにより試合が見られるように期待する。

2020東京大会の事前キャンプについて、品川区をPRしたところ、リオが終わったら、考えるとの回答を得ました。



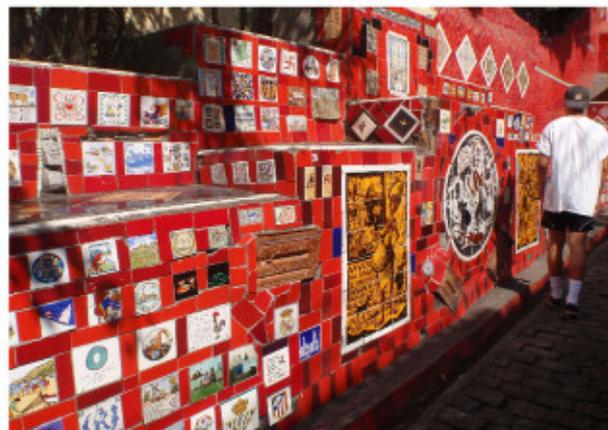
視覚障害者スポーツ連盟にてヒアリング

⑱文化施設調査 「セラロンの階段」 “Escadaria do Selarón”

<12時～12時40分 Centro 地区>

リオ市の代表的文化施設である「セラロンの階段」とその周辺を、徒歩で視察しました。決して治安が良いとはいえない地域にあり、路上に座りこんで飲酒をしている人たちも見かけましたが、多くの観光客でにぎわっていました。また、ブラジルの工芸品やみやげ物売る個人商店がたくさん出ていました。

「セラロンの階段」以外には、観光名所と呼べるような場所を訪れる時間はありませんでしたが、リオ市内最大の観光地「コルコバードの丘」などは、多くの観光客であふれかえっていたとのこと。2020年は、確実に東京でも同じ状況となることが考えられます。これらの人々をいかに品川区内に呼び込むかが、とても重要です。



セラロンの階段

⑩セーリング会場周辺公園調査、ボランティアインタビュー

<15時～15時30分 Praia do Flamengo にて>

観戦場所が広範囲に及ぶセーリング競技の会場周辺で、ボランティアの配置状況、役割等を観察し、都市ボランティアへのヒアリングを実施しました。

ボランティアは約2,500人におよび、リオ観光局の職員も900人程度いるとのことでした。また、このエリアには臨時職員も雇っていることがわかりました。約200メートル間隔でボランティアを配置し、会場案内を行っていました。他の会場でも見られましたが、審判台に乗っているボランティアがとても印象的でした。また、私服で警備する警察官に話しかけられ、大変驚きました。



ボランティアによる誘導



私服で警備する警察官

⑪観客視点での導線調査

セーリング会場 → 地下鉄利用 (Catete 駅 ～ Cardeal Arcoverde 駅)
→ (徒歩) → ビーチバレーボール会場

<15時30分～17時>

観客の視点に立って、公共交通機関(地下鉄)を利用し、セーリング会場からビーチバレーボール会場に実際に移動しました。そこで、各種サイン類やトイレ、ゴミ箱等確認することができました。

地下鉄車両は、民間により、オリンピック仕様のラッピングがされていました。会場最寄駅における観客の誘導は、十分に配慮する必要があると感じました。

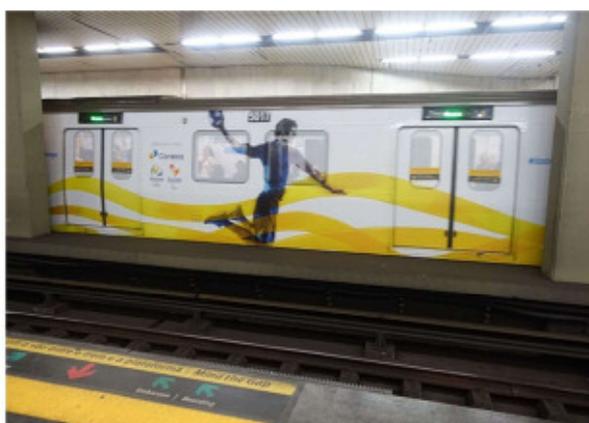
今回の視察は、治安上の理由から、ほとんどがバスによる移動でしたが、ここで、地下鉄を利用できたことは大きな収穫でした。リオ市内でも地下鉄は比較的治安が良いと言われています。

最後にビーチバレーボール競技会場のある、コパカバーナ海岸エリアを再び歩き

ました。ビーチは、もともと観光地であるため人の流れは大変なものでした。オリンピックに合わせて設置したであろう、デジタルサイネージや、看板付きのミストによる暑さ対策、VISA 説明員による誘導のほかに、オリンピックに関わりのない、飲酒運転反対キャンペーン等、大変なにぎわいでした。

このあと、視察団は、帰路につくために空港に向かいました。

空港で、今回、貸し切ったバスの4日間の走行距離は、876 kmであることを確認しました。



地下鉄車両ラッピング



地下鉄内オリンピック案内員



地下鉄駅



駅前広場



企業による誘導案内員



コパカバーナ海岸のにぎわい



審判台から案内する大会ボランティア